

# 壁面緑化について

東京都市大学環境学部環境創生学科 田中章研究室

近年、ヒートアイランド現象や温暖化などが問題となり、対策としても都市緑化の必要視されている。都市緑化の有力な手法として壁面緑化があげられる。水の循環を利用する壁面緑化システムは水辺を好む植物種を用いるのに適している。

近年、都市域の生物多様性を向上するため、都市緑化における在来種の積極的な利用が重要視されている。壁面緑化においても在来種の利用を促進することで、都市域の生物多様性保全に向けた在来種利用の意識向上に貢献することができる。そこで本研究では在来種であり、水辺を好むホウライシダを用いている。



## ホウライシダ

和名:ホウライシダ 学名: *Adiantum capillus-veneris*

常緑性。気温が $-2^{\circ}\text{C}$ になると落葉する。耐寒性種。根茎(茎または地下茎)は短く匍匐し、相接して葉をだす(海老原,2016)。多くは樹林の周辺、日陰になる岩の裂け目、川べりなどに自生する。世界の温帯、熱帯地方に広く分布する。孢子嚢群は裂片の上縁につき、腎臓形および半円形の偽包膜に包まれている。

## 基盤

みのる産業株式会社と株式会社クラレが共同研究で開発した人工固化培土である、『エクセルソイル』を導入している。当キャンパス壁面緑化システムの基盤として利用している。壁面緑化システムでは水が循環するシステムが備わっているため、それに合わせて植え込み型の壁面緑化に適した基盤と推奨されているこの基盤を用いた。

## ビエンナーレ

神戸ビエンナーレ2015において田中章研究室(チーム:LAB..lab.)が入賞した。コンセプトは六甲山の自然が育む一滴の水。各時代の六甲山の植生を象徴する植物によって私たちの暮らしと六甲山の歴史を表現しつつ、プラスチックカップでこれら植物を育て、その間に水を流すことで自然の恵みを表現した。現在は、壁面緑化の正面に展示されている。



作品名「水を紡ぐ」